



だより



R6.12.24 Vol.33

二学期も終わりますね!

いよいよ明日で二学期も終わります。振り返ってみますと、夏休みにあった水泳記録会、二学期早々にあったジュニアバレーの大会、秋の陸上運動記録会と学校の内外問わず、真穴っ子大活躍でした。「校長先生!今年の真穴はすごいな!」というような方からお声掛けもいただき、本当に嬉しい限りです。

実際に頑張るのは子供ですし、指導者の力量が優れていることは言うまでもないのですが、ここ数年、そういう良い流れは一人の力ではなく、様々な人が陰日向になりながら支えたり、協力したりしたお陰だと感じようになりました。見えない力が集まった結果なんだろうなど。お声掛けいただく度に、そういう支持的な風土がある本校に勤めることができていることをありがたく感じています。来年もこの流れが続くよう、精一杯頑張りたいと思っています。皆様!良いお年を!

メリークリスマス!

子供の頃、サンタクロースを信じていました。青年期、「そんなもん!いるわけない!」と目に見えるものだけを信じるようになりました。子供ができて、信じてほしいなと願うようになりました。大人の階段下り始めた今、「サンタクロース、来るかなあ?」と子供に聞いて回るのがこの時期の恒例になっています。

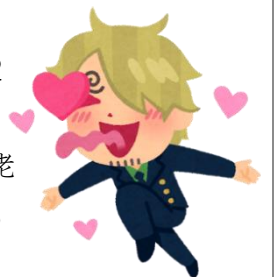
「今年はサンタ来そう?」「はい。多分。」別の子が「でもサンタが来るのは小学生の間だけなんで!」「え?そうなん!」「はい!家の人がそう言ってました。」「そしたら今年が最後かあ…。」「実は校長先生…サンタと友達なんよ。」「あ!そしたら今度のお楽しみ会!来てくれるように伝えてください。」「分かった!ライン入れとく!」「お願いします!」大事にしたいひとときです。メリークリスマス!

四方山話真穴 ver. 其の三十三(孫)

便利な時代になりましたね。息子夫婦が「みてね」というスマホアプリで孫の写真をアップしてくれます。そのアプリをダウンロードしておけば、アップされた写真が共有され、すぐ見る事ができるんですね。私が1人で孫の画像や動画を見てニヤニヤしてる姿はさぞかし不気味でしょう。

ただただ愛おしい。我が子もちろんそうだったのですが、それとは何か違う感情が自分の中で生まれている気がします。私の祖父もこんな感情で私を見ていてくれたんだろうか?私の父も私の息子たちをこんなふうに愛してくれていたんだろうか?孫の姿を通して湧いてくる我が子への思いとはまた違った思い。父や祖父への感謝の念であったり。つながりの中で自分たちは生かされ、またつながっていているという実感であったり。亡き父母に伝えきれなかった思いとその後悔であったり。孫の顔と幼き頃の息子の顔が重なる嬉しさであったり。父親としての役目が本当に終わったんだなという一抹の寂しさであったり。そんな万感の想いが愛おしいという感情につながっている気がします。

先日、同世代の教師と話す機会があり、こんなことを言っていました。「いやあ、最近1,2年生が可愛くて可愛くて…。若い頃はちょっと低学年の担任は無理かもなあなんて思っていたんですが、今だったら1年生の担任をすごくやってみたいですね。」「わかるう〜!」初老親父二人がニヤニヤ話している光景はこれまた、さぞ不気味だったことでしょう。いつまでも若いいたいという思いもちろんありますが、年を重ねることで見えてくる景色もあるんだなとそんなことを感じています。「亀の甲より年の功」言葉の意味だけでなく、実感としてこの諺が胸に沁み始めている今日この頃です。(まだまだ若造の域は出ませんが…)



----- 切り取り線 -----

2学期も終わりますね。便りの感想や学校への要望等ありましたら、お聞かせください。今後の学校経営・運営に役立てていきたいと思ひます。